

○ 福井弥生・ 紀 安子**

(京都女大 、 **)

目的 女性の社会進出や結婚に対する意識の変化によって晩婚化や少子化の動向が社会問題となっている。このような社会状況の中で、女子学生の結婚とファッション意識との関連を明かにすることを目的として調査を行った。

方法 集団質問紙法による調査を実施、調査時期は1994年10月、調査対象は近畿地域在住の女子学生288名、質問紙回収率は100%、有効回収率95%である。調査項目は、個人特性、生活条件、結婚の意識、ブライダル衣裳のイメージ、スタイル、ファッション意識である。分析は、単純集計、クロス集計、因子分析を行い、結婚に対する意識とブライダル衣裳について検討した。ブライダル衣裳のスタイルの資料はOL対象の研究と同じ方法。

結果 理想の結婚年齢は24～26歳、結婚の時期は自由でいたいため今はしたくない、結婚を決意するのは人生を豊かにしてくれる人が現れた時である。家庭像は何事についても2人で相談し、家事も分担する協力型を理想としている。理想の結婚式は親族や親しい友人だけのアットホームな感じの式である。挙式・披露宴の衣裳の選択基準の1位はともに流行・デザインであるが特に挙式では伝統的な美しさ、披露宴では個性が重視されている。好ましいブライダル衣裳のイメージの形容詞語対14項目の評定平均値の高い項目は、かわいい、上品な、暖かい、ドレッシーなである。因子分析の結果は、累積寄与率99.9%で第1因子はドレスの自己評価の因子、第2因子はドレスのデザインの因子、第3因子は目立ちの因子と解釈した。学生生活での服装はファッション雑誌に情報を得ながら、服装のトータルファッションに気を配り、対人意識は同性の友人が一番気になる。結婚の意識ではまだ現実感はずいぶん遠いようである。